



〈 連載(285) 〉

神戸発着の「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」 に乗る(その2)



大阪府立大学21世紀科学研究機構
特認教授 池田 良穂

前回は、14万総トンの現代クルーズを代表する船である「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」の神戸発着7日間クルーズのうち、前半の神戸を出てから沖縄の那覇を出港するところまでご紹介したが、今回はクルーズの残り半分の様子をレポートしたい。特に、神戸に帰着する直前には台風と遭遇して、船舶の運動性能の専門家としてしてはとてよ体験ができた。

さて、夕方に那覇を出港した「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」は、台湾に向けて針路を南西にとった。台風がフィリピン付近でちょうど発達中で、その後、北よりの進路をとり、日本にも接近する可能性が大きいとの予想がでていた。しかし、所定の台湾の基隆寄港には変更はないとの船内アナウンスであった。

翌朝、基隆には雨の中の入港となった。関門を通り、ターミナルに着岸荷役中の韓国のHANJINの大型コンテナ船をかわすと、港内で回頭して、後進で港内へと入った。回頭中に、元東日本フェリーの超高速カーフェリー「ナッチャンRera」の姿が見えた。

現在は、「麗娜輪」という名で台湾海峡を渡る航路に就航中とのことだが、売却後、写真では見ていたものの、初めての対面であった。台湾で大いに活躍しているようなのに一安心。



荷役中のHANJINのコンテナ船



塗装は青函時代のままの元「ナッチャンRera」

「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」は、港の出口に近いコンテナターミナルへの着岸

となった。この日は、港の奥の客船ターミナルへの着岸予定であったが、スタークルーズと中国籍のクルーズ客船が2隻入ったため、大型の「ボイジャー」は外側の岸壁を割り当てられたようだ。コンテナクレーンは、船の前後に移動されおり、その真ん中にぴたりと「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」は着岸した。さすがにポッド推進器の性能はすごい。

岸壁上には、小さなテントが1つ設置され、後は15台ほどの観光バスと20台ほどのタクシーが並ぶだけ。日本とは1時間の時差があり、現地時間の10時40頃に着岸した。



基隆のコンテナターミナルが使われ、小さなテントと、たくさんの観光バスが並んでいる。

着岸してわずか20分ほどで、乗客の下船が始まった。この迅速な上陸ができたのは、那覇を出港するとその夜には、船が預かっていた乗客のパスポートのコピーに「中華民国入境」というスタンプを押したものが渡され、パスポートは船にそのまま預けたまま、このコピーを持って上陸すればよいことになっていたためであった。すなわち、

対面の入国審査はクルーズ客には免除されていることとなる。クルーズでの短い滞在時間を十分に活用できるので嬉しい対処法だ。

岸壁のテントの下では、小さなテーブルで銀行員が2人で両替をしていた。ただし、観光案内も全くなく、タクシーの誘導員が数人いるだけという状態で、雨の中タクシーを求める乗客で溢れかえる状況になっていた。言葉も通じないため、なにがどうなっているかがさっぱり分からない状況で、情報が錯そうしていた。

なんとか粘って誘導員にタクシーを手配してもらい、基隆港内と、台北市内、山間の観光地である九份を廻った。

夜に船に戻って、11階のレストランの一角で出港船をウォッチング。大型カーフェリー(元東日本フェリーの大型船)と中国客船(元ギリシアのクルーズ客船)が、相次いで出港していくのを写真撮影することができた。



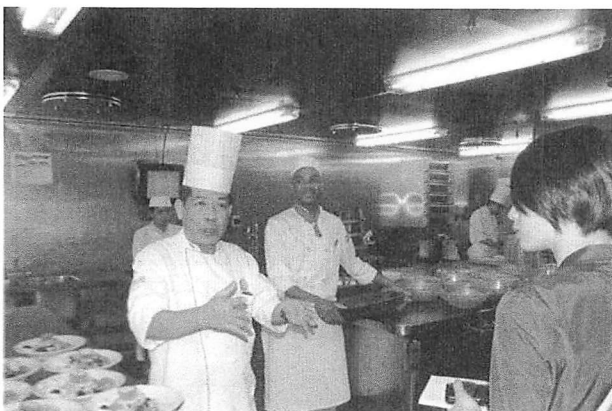
夜に基隆を出港する中国籍のクルーズ客船。元ギリシアの客船だ。

夜10時に、「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」は基隆港を出港し、神戸へと向かう。2泊3日の航海だが、前述の台風が追いかけるようにやってきていた。予報によると、

台風の方が船を追い越すようだ。

基隆を出港してから2日間は洋上航海だ。午前中に、我々の学会の視察団のギャレー見学が用意されていた。エグゼクティブシェフが、メインダイニングのギャレーを案内し、いろいろと説明をしてくれた。食の安全性はもちろんだが、とにかく食材を有効利用して、無駄をなくすることに徹底しているようになっていたとのこと。

従来は、かなりの作り置きをして、迅速に食事を出すことが優先されていたが、今は基本的にはダイニングルームでの注文が来てから調理に入るメニューが多いとのこと。コンピュータ入力されたステーキの数が画面表示され、そこにはレアからウェルダンまで、焼き加減ごとの注文数が瞬時に表示されるようになっていた。料理は作ってから4時間たつと廃棄することが決まっており、それをできるだけ減らす努力が続けられているとのこと。コスト面だけでなく、環境保全の意味も大きいという。毎日のメニューの料理は、すべて、サンプルが作られ、シェフ全員が試食をして味を確かめることも行われており、我々も試させてもらった。



ギャレーツアーの様子

正午には、ブリッジから、船長の台風予想と航海状況について船内テレビ放送があ

った。内容は、台風からは500km以上離れたの航海となり、心配はいらないというものであった。以前、カリブ海で7万総トン型と16万総トン型のクルーズ客船でハリケーンに接近した経験があるだけに、台風接近時の航海はぜひとも経験したいと思っていただけに、ちょっと残念な気持ちもあったが、とにかく安全第一が大事だ。

午後には、台風の影響か、若干揺れを感じるようになった。しかし、加速度を感じる程度で、横揺れもとても1度にはいかなほほど小さい。15時、船内テレビでの情報では、海象はビューフォート7、風速は30～33ノットで、船は23ノットで北上中している。この速力は同船の最大速力に近く、神戸に予定の前日に着いてしまいそうだが、台風からできるだけ離れておく航海戦略のようだ。その後、次第にビューフォート階級は上昇し、19時には9に、風速も41ノット(約20m/s)になった。船の揺れ自体は大きくないが、時々、床がゆっさゆっさと左右に揺すられるようになった。いわゆるホイッピングだ。ただ、船内はきわめて静穏で、各種の船内イベントは予定通り行われていた。

夕方には、ビューフォート階級も若干下がって7～8になり、船速は16ノット程度に下がった。高速で走って、とりあえず大阪湾まで船を持っていくのかと思っていたが、そうしなくても十分台風には対応できそうとの船長の判断なのであろう。

この日は、夕方からフォーマルナイトで、着飾った乗客で船内は華やいだ雰囲気となった。19時からプロダクション・ショーがあり、メインダイニングでの食事スペシャルメニュー。食後には、スタッフのパレ

ードと、ダイニングルームの正面階段にシェフ以下、全スタッフが集まって、挨拶とオーソレミーオの大合唱。クルーズのラストインプレッションをよくするための仕掛けだ。乗客の盛り上がりも最高潮となる。

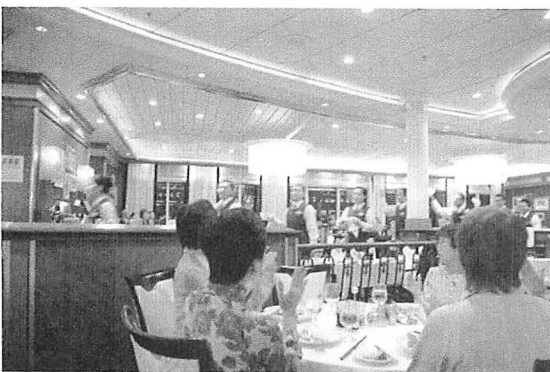
夕食後のカジノは大盛況。ルーレットとブラックジャックのテーブルは大人気で、なかなか席がとれないほど。



メインシアター



プロダクション・ショー

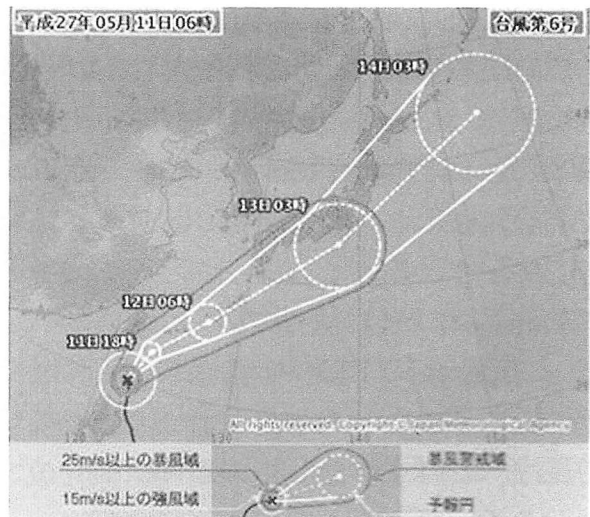


レストランでのウェイター、コックのパレード

翌朝には、船は九州の大隅半島の沖にまで達していた。昨晚から船速は16ノット前

後にまで落としている。ビューフォートは6、風速は24ノット(約12m/s)で、海面の白波は少なくなり、波は穏やかになったが、うねりがあり、昨日よりも船体運動を感じるようになった。ただし、加速度をわずかに感じる程度で、揺れ自体はほとんどわからないほど。

台風が後方から次第に接近しつつあるこの日は、インターネットで台風情報を取り、キャビンのテレビで、ビューフォート、風速、船速をモニターすることとした。下の図は気象庁の台風6号の予想図で、これによると明日深夜3時には台風は静岡県沖にまで達すること。このままのスピードで船が進めば、四国沖で台風が船を追い越すことになりそうだ。



気象庁の台風の予想進路

この夜には、ショーラウンジでのショーが、セカンドシッティング客が19時から企画されており、筆者の予測では、この頃に台風が船を追い越していきそうなので、ちょっと心配をしていたが、中止というアナウンスもなく、船内のすべてのイベントが予定通り行われている。

海上の様子が一変したのは17時を過ぎた

頃からであった。周りの視界が一気にきかなくなり、海面には白波が立ち始めた。以下に、17時からのビューフォート (BF)、風速、船速の推移を以下に示しておこう。

- ・ 17時、BF 4、風速12ノット、速力16ノット。
- ・ 17時15分、BF 9、風速43ノット、北西の風。速力17.3ノット。外は全面白波。
- ・ 17時20分、BF 9、風速41ノット、北西の風。速力18ノット。
- ・ 17時40分、BF 9、風速40ノット、北西の風。速力17ノット。ほぼ横風。
- ・ 17時45分、BF 8、風速34ノット。速力17.3ノット。
- ・ 18時、BF 8、風速34ノット。速力16.9ノット。空が明るくなり、海面の白波も少し少なくなった。
- ・ 18時15分 BF 8、風速38ノット。17.2ノット。

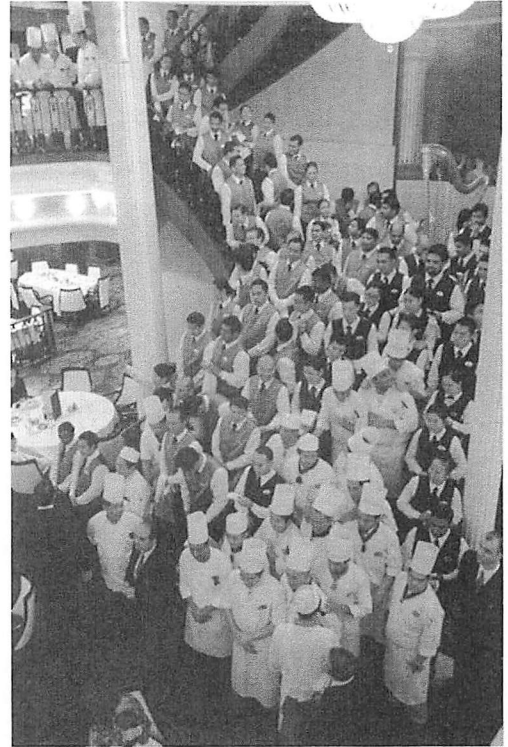
このように約1時間あまり、海は荒れ、平均風速は20mを超える状況が続いたが、船はほとんど揺れず、時々、ドーンという波が船体をたたき音とともに、床が少しゆっさゆっさと揺れる程度であった。さすがに300mを超える巨大船だけのことはある。

後で得た情報では、この台風は高知沖で温帯低気圧になって勢力が衰えたとのこと。船長は、これを予想しての航海計画を立てたようだ。その後、船は一気に、12ノット程度までスピードを落とした航海となった。神戸に翌朝定刻に着くためのスピード調整だ。

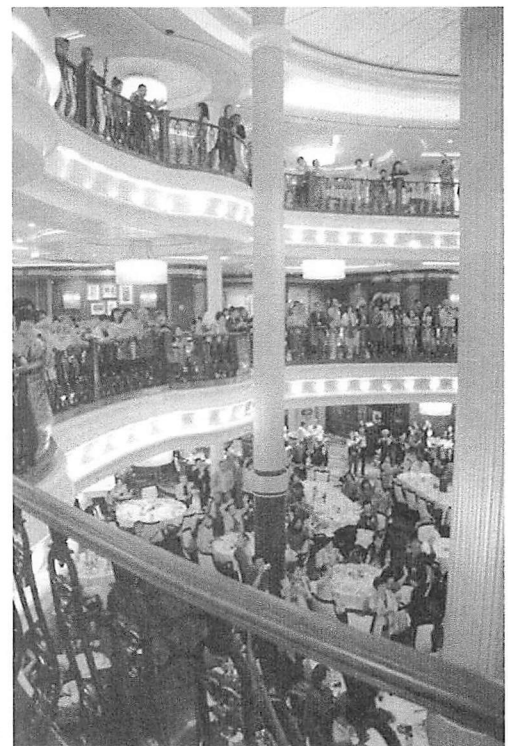
19時からのバイオリン演奏のショー、続いてディナーがあり、スタッフのパレードと、日本語での「贈る言葉」の大合唱がメインダイニングルームに響いた。昨夜に続いての大盛り上がりで、神戸下船の人々には強烈なラストインプレッションを与えたよ

うだ。その後のカジノも大盛況であった。

翌朝目覚めると、すでに船は神戸のポートターミナルに着岸していた。素晴らしいクルーズが終わった。



贈る言葉の大合唱



スタッフの合唱に拍手を送る乗客